

第2回当別町総合計画審議会要旨

- 1 日 時 令和元年10月9日(水) 14時00分から16時40分
- 2 場 所 当別町役場第2庁舎 2階会議室
- 3 出席委員 別添名簿のとおり(村上委員欠席)
- 4 町出席者 事務局：江口部長、長谷川課長、石原係長、井田主任、寺田主事
- 5 傍聴者 4名
- 6 審議会要旨

(1) 会長挨拶

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。8月に開催された第1回総合計画審議会では、当別町の新しい総合計画の立案に向けて本審議会が果たすべき機能を掲げ、第5次総合計画の各事項の進め方や達成度を理解し、また、新しい総合計画策定の基本となる基本構想編や総合戦略編の説明がありましたが、それらを踏まえ、新総合計画に対する諮問をうけるという流れになっております。本日は、総合計画と総合戦略の実施状況についての説明と、新総合計画立案に活かすべき、当別町内で活発に活動を行っている各団体・グループからの現状や課題についてのインタビュー結果を報告いただく予定となっております。その後、新しい総合計画の素案について審議を進めていきたいと思っているので、ぜひ皆様に活発な意見交換をしていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

(2) 審議会委員の交代について

(事務局)

当別町金融協会幹事の立場で参加いただいていた北海道銀行当別支店長の田口委員の人事異動に伴い、10月1日より新たに北海道銀行当別支店長になられました鴨崎一博様が委員となりましたのでご紹介いたします。

(鴨崎委員)

10月の人事異動で十勝の広尾支店から当別支店へ配属された鴨崎と申します。広尾町も北海道銀行が指定金融機関であり、地方創生の委員をやっておりましたので、他の町村から見た視点での意見も述べられればと思います。よろしくお願いたします。

(3) 新しい当別町総合計画(素案)の諮問

(事務局)

机上にある諮問書をもちまして、新しい総合計画について、当別町より当別町総合計画審議会への諮問とさせていただきますので、よろしくお願いたします。

(4) 議題

- ① 当別町第5次総合計画及び当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略（第1期）の実施状況等について

資料1-1、資料1-2に基づき長谷川課長より説明。

（石田委員）

KPIにおける道の駅の利用者数の進捗率をみると167%と非常によく、売り上げも伸びており順調であるという話を聞きます。しかし町民に聞くと、1度行ってみたが2度3度足を運ぶことがないという意見が非常に多いです。ヒルズから道の駅までコミュニティバスが走っているが、ほとんど空席なのが現実です。なぜ道の駅に行かないのか聞くと、関係者の方には申し訳ございませんが、野菜の値段が高いということをおっしゃっていました。道の駅に来てる方はほとんど町外の方であり、これは今後の課題であると思います。もう1点は、自主防災組織として総務課からの指導で各町内会ごとに計画などを作成しております。各町内会が努力をして作成はしたが、訓練の時にそのとおり動いていないなど書類だけの形になってしまっていると思います。役員や班長は1年間で交代することから引き継ぎもうまくいっておらず、役に立っていない状況です。自分の町内会もそのような状況であり、なんとかしなければいけないと思っているところであります。

（事務局）

道の駅について、町外からのお客様は観光入込客数をみても非常に大きく伸びている部分であります。反面、調査はしておりませんが石田委員の言うとおり町民の方が足しげく通っているのかと問われると、そうだとは言いきれない部分があります。町民向けの施設になっていないというのは確かだと思います。道の駅設立目的の大きなところは、町外から人を呼び込むということが大きなテーマで、そこに力を入れてきたという事実はあります。しかし、コミュニティバスを走らせているということや、町内の方にも地元でとれた野菜を手にする事ができる貴重な場所になるので、町民の方に還元するような意味合いも込めて、道の駅を使っただけのようなことも考えていくべきではないかと考えており、非常に大きな課題として受け止めさせていただきます。それから、自主防災組織が形づくりをただけで終わっているのではないかとこの指摘については、中身が伴って初めて防災だと言えらると思います。自主防災組織として訓練しなければいけないと思いますし、担い手の交代の都度、意識啓発をしなければならぬと受け止めさせていただきます。

（黒澤会長）

防災組織については実質的な活動は行っていかなければいけないと思いますし、道の駅の利用については町内の方に還元できるような何かがあればいいと思います。

(後藤委員)

資料1-2にある数値目標・KPIについて、増減要因を記載する場所があり、次の総合戦略を策定する上でとても重要な部分だと思います。しかし、数値目標を達成できていない転入者の部分を見ると傾向だけ示されており、検証ができていないため、次の目標を立てられないのではないかと思います。この部分には、なぜ達成できなかったのかを記載した方がよろしいかと思います。低・未利用地の解消面積の部分も内容がわからないため、今まで単純に取り組んでいないのか、何らかの理由があって取り組めなかったのか丁寧に記載した方が、次回の目標設定の際のしっかりとした根拠になるかと思います。

(事務局)

おっしゃるとおりだと思います。特に未達の部分については記載が弱いと思います。他の会議に使用した資料であり、そのまま引用して提示したことを反省しております。転入者数については人口増加に向けた重要な部分であり、これが要因であると言い切ることが難しいものではありませんが、もっと掘り下げなければいけないと思っております。人口の部分で申し上げますと、人口は減少しているが世帯数は減少していないというのが近年の傾向となっております。これは、世帯の中から構成員が減っているということで、子どもが進学や就職を機に転出していることが考えられます。その分の世帯が転入していないということが人口減少につながっていると思います。新しい世帯が転入してこないというのはなぜかとなると、1つの例として、世帯数が減っていないのであれば駅周辺の好立地な宅地の空きはない状況だと思われれます。利便性が高い場所を新しく宅地開発しなければ、人口は増加していかないのではないかと分析を始めているところであります。なんとかして宅地を増やす必要があり、その宅地に戸建てに限らず、アパートや分譲マンションの建設も考えていかなければいけないと思います。そのために立地適正化計画の策定において、様々なシュミレーションを行っているところであります。

(黒澤会長)

確かに検証をしっかり行わないと次の計画に活かせないというのはおっしゃるとおりだと思います。不明確な部分があれば、事務局の口頭説明で補っていく必要があるかと思いますのでよろしくお願いします。

(泉亭委員)

福祉従事者の立場として意見を述べますが、町は町民全体のことを考えなければいけないと思います。総合戦略では確かに町民のことを考えてはいるが、幼児や子どものことが多く、高齢者に関することがほとんどないと思います。例えば、独居老人がどんどん増えているが、誰が見ていくのかというと、地域で見ていくこととなります。JRが廃線となり足がなくなってしまった方や地域の端に住んでいる方と、中心部に住んでいてデマンドバスを自由に使える方とでは生活のしやすさにかなりの差がある

と思います。そういったことにも目を向けることを考える施策も必要であると思います。子どもから高齢者まですべての人のことを考えるのが福祉の世界であり、行政の仕事だと思います。現在、社会福祉協議会では金沢・中小屋地区、弁華別・茂平沢地区で買い物支援を行っています。買い物の支援をするといった機能だけではなく、普段一人で過ごしている方が休憩場所で談話をし楽しんでくれています。見守りとして社会福祉協議会の職員が自ら運転して行っているが、他の業務もあり、いつまでも続けていけるものではないと思っています。そういうことも含めて、これからの計画に取り入れていただきたいと思っています。

(事務局)

説明が言葉足らずでありましたが、総合戦略の中にも高齢者の方への施策も取り入れてあります。例えば、認知症総合支援事業や生活サポーター活動支援事業などは社会福祉協議会に大変お世話になって実施しているところでもあります。これまで社会福祉協議会とお互いに役割分担しながらご協力いただいて、事業費を確保することに努めてまいりました。社会福祉協議会も潤沢に職員がいないということを踏まえ、お互い厳しいところは補完し合い、役割を見直したりと、地域のニーズを捉えた事業を町としてもしっかりサポートしていくことが必要だと感じております。地域福祉推進プロジェクトは、高齢者の方を十分に意識したプロジェクトであり、現役の方や高齢者の方も一緒になって生活していくことを追求していくプロジェクトであります。行政としては高齢者の方に対する施策も盛り込んでいるつもりではありますが、まだまだ不十分であるというご指摘もあるかと思えます。新しい計画の策定を行う際には、そういった視点でのご意見も頂戴できればと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(宮永委員)

泉亭委員が言われたように、高齢化社会を迎えた時にいかに費用をかけないかがポイントであると思います。例えば、除雪の問題からすると、地方に一人で住んでる方を集約してまち側に住ませる施設を作り、できれば持ち家を買って上げて家賃を払ってもらえるようにするというのも1つの手であると思います。そうすることで、除雪しなければいけない道路が減り、経費がかからなくなると思います。その方にとっても、買い物など生活の利便性が向上すると思います。共同で生活するような生活の場をまち側に集約して、外でかかるお金を削るような施策が私はあってもいいのではないかと思います。今まではなかったが、できるかできないかは別としてこれからは抜本的に発想を変えたような計画にしなければいけないと思います。

(事務局)

コンパクトシティという考え方があり、庁舎内で議論をしたことがあります。その際にも、土地に愛着がある人は抵抗するだろうという意見がありました。ただ、一人で不安を抱え財産を手放してでもまちに住みたいという方については、グループホームや集合団地やアパートに住んでもらえば非常に効果的な施策であると思います。ネ

ックなのは、行政としてどこまで器を用意できるのか、どのように人を集めてくるのか、空き家となった家はどうするのかという課題があります。宮永委員がおっしゃったとおり、抜本的にどこまで追求できるのかが行政の永遠の課題であります。今説明したような発想も持ちながら、どこまで抜本的にチャレンジしていいのかという大きな命題を課していただいたと思います。真摯に受け止めて進めていきたいと思いますが、ご希望にそえるかどうかは何とも言えないというお答えをさせていただきます。補足として、高齢者の快適な居場所づくりに関しては、まち再生室の立地適正化計画策定の中でも議論となっております。1つの例として、サ高住が具体的な施策として効果的なのではないかと日本全体で提案されております。当別町としても、高齢者の方が安心して住める環境づくりとして駅周辺の都市機能を少しずつ充実させながら、官民共同でサ高住を展開していければと検討しているところであります。

② グループインタビューの結果について

資料2に基づき長谷川課長より説明

(宮永委員)

学生のアルバイトがないという感想はよく聞くが、アルバイトを募集しても集まらないという実態もあります。それはうまくマッチングできていないということなのでしょう。

(事務局)

グループインタビューの中で出た感想の1つであります。医療大学生は、国家資格の取得に向けて熱心に勉強しております。講習なども多いため、毎週働くシフト制はできれば避け単発がいいという意見が多いです。町の取り組みとして、各イベントに大学生を派遣する事業を始めており、最近ではさわやか駅伝にも町が大学生を雇って派遣するなど単発のアルバイトの斡旋しております。

③ 新しい当別町総合計画（素案）について

資料3-1、資料3-2、資料3-3、資料3-4に基づき長谷川課長より説明。

(泉委員)

子どもが少なくなっているが、この素案をみると少子化に対する施策があまりないように思います。20年前と比べて小学生と中学生の人数は半分以下になり、来年小学校に入学する人数も66名しかいません。新聞に、当別は出生率が非常に悪いと掲載されたこともあります。その対策があまりされていないかと思えます。負債残高も減ってきていることから、町としては色んなことにお金を使えるようになってきているが、出生率が低く、子どもが減り、高齢者が増えていく中で、もう少し子どもを増やす施策をして欲しいと思います。現在ロイズがあるあたりを工業団地化して新しい駅ができれば、もっと人口増加に向けたまちづくりができるのではないかと思います。

ます。子どもを増やす、現役世代が転入してきてくれる施策を盛り込んでもらいたいです。もう1点は、農家戸数が20年前と比べ半分以下になっています。土地を大きくしてたくさん作るようにすればいいかという、限界がきている農家もあります。後継者がいないことが問題であり、Uターンがほとんどなく、新規就農者もうまくいかずに終わってしまうこともあります。そこを考えると農業のまちという割には対策ができていないのではないかと思います。そういったことも視野に入れた総合計画にしてほしいと思います。

(事務局)

出生率は北海道ワースト1、全国でもワースト5に入ってしまいます。ただ、計算方法が子どもを産むことができる女性の数が関係してくるため、女子大生が多く住んでいる当別町は不利な数字にならざるを得ないということを情報提供いたします。しかし、出生数が少ないということは事実であります。ご指摘のとおり、当別町の人口ピラミッドはひとのウエストのようにくびれており、子どもを産むであろう25歳から35歳までの男女がともに少ないため、生まれる子どもの数も少なくなってしまう状況です。なおかつ、全国的な傾向として、子どもを産む人数も1人、2人と少なくなってきた状況です。とにかく子育て世代を増やす、子どもを増やすということが総合計画・総合戦略の基軸になるので、産業部分では企業を誘致し、その従業員に住んでもらうことが子育て世代の増加につながりますし、工業団地などの新しい開発も子育て世代の増加につながると考えております。あわせて、これから教育費については、お金をかけていく予定であります。学校の建設自体に巨額な予算を費やすことになりませんが、建設後の教育も新しいことを始めていき、当別町の教育の魅力を高め移住者の増加につなげていきたいと考えております。そういった思いを総合計画・総合戦略でつづっているつもりではありますが、表現等についてご意見頂戴したいと思っております。1番の課題は助成事業をどうするかという部分であり、子どもがいる世帯に対して乳幼児医療や給食費の無償化を掲げることも1つの手であると考えております。取り組みを始めた自治体も出始めてきているが、その取り組みを始めるべきか、ばらまき感があるため本当に正しい取り組みなのかを整理する必要があります。助成の部分や教育に関する部分をより充実させることが町外へのアピールになるので、なんとか予算を確保し、できる範囲で拡充していければと思っております。農業については、耕作者がいないからといって農地をそのままにしておいてはいけないという思いがあり、各団体と一緒になにかしらの施策をしなければいけないという気持ちはあります。ただ、農業政策は大きなお金がかかるということもあるので、知恵を出し合いながら農業をされている方のバックアップをしていきたいです。計画の内容については、実際の農業者の方から見ると足りない部分があると思いますので、ご指摘いただければと思います。

(宮永委員)

前回の計画もそうであったが、目標人口に向かって人口を増加させる施策がないと思います。泉委員の言ったことが掲載されていないからみんなそう思うのであって、今住んでいる人達の転出を食い止めることを大前提として、その目標を達成するために町外から人を呼び込むための施策が掲載されていないので進んでいかないのではないのでしょうか。

(後藤委員)

付随して、数字はみなさんが気になる場所であるから、年代比率なども掲載した方がいいのではないのでしょうか。例えば、60歳以上の人だけが増えて目標を達成してもどうなんだという意見もあるだろうし、人口が今と変わらず目標を達成することができなかつたとしても若者、子どもが増えていけばまちの未来は明るく、今後は人口が増加していくのではないかと期待することができます。

(宮永委員)

札幌に住んでいるよりも当別に住んだ方が得だと思える何かがないと誰も飛びつかないと思います。例えば、人口を増加させるためにJRの快速を走らせるといった視点で記載しなければいけないと思います。

(高橋副会長)

宮永委員が言ったどの視点から見て政策をすすめていくのかということは大変だと思います。

(川村委員)

新駅の開発は人口増加に向けた施策かと思います。

(事務局)

新駅の開発は特に町外の方を呼び込む施策だと考えております。

(泉委員)

農地があるのに何も作らないということは農業団体は大変なことになると思います。作る人がいない農地をどうするかといったら、まちを作っていくしかないと思うので、そういったことも戦略に盛り込んでいかなければいけないと思います。

(川村委員)

担い手の不足に関しては、着実に対策が動き出しています。

(事務局)

総合計画だけで施策が進んでいくものではないため、総合計画に盛り込みすぎると膨大なものになってしまいます。あくまでも総合計画は庁舎内の施策を集約し、方向性を示すものとなっております。実際には各部局に個別の計画があるので、あまり具体策がないと追及されてしまうと、総合計画の枠をはみ出しかねない部分になってしまいます。思いは十分に理解しましたし、いただいた個別具体的な意見は速やかに各部局へ伝達いたします。そういった事情を含みおきいただき認識していただいて、大き

な方向性としてぶれていないかというところを確認していただければと思います。また、審議会でいただいた意見は行政だけでは行えるものではないので、関係団体とも打合せしていかなければいけないことをご承知いただければと思います。

(黒澤会長)

素案を一度ご覧いただき、ご意見をまとめておいていただければと思います。その意見を次回あるいはメールなどで事務局へ伝えていただければと思います。

(宮永委員)

どれが人口増加に向けた施策なのか示していただきたい。

(事務局)

すべてが人口増加につながる施策だと考えております。特に総合戦略編の新しいまちの顔づくりプロジェクト、その次に駅周辺再開発プロジェクトは人口増加に直結する取り組みだと認識しております。

(黒澤会長)

非常に活発な意見交換をしていただきありがとうございました。それでは第2回総合計画を閉会いたします。

(5) その他

(事務局)

日程調整票を10月16日までに提出していただきますようよろしくお願いします。また、素案に対する意見はできれば10月中を目途にご提出していただければと思います。

以上